

数年前から、NHK ラジオを聴きながらの夕食。「ラジオ深夜便」が中高年リスナーの密やかな楽しみとなり、静かなブームで着実に広がっている。視聴者参加型といえば格好は良いが、意味もなさそうな話題を、早口ではしゃいでいるテレビに見切りをつけ、大人達が尊い自分の時間を大切に始めた。

二月の一夜、男性アナウンサーとの電話を通してのやり取りに耳を澄ませた。

北海道の中でも、釧路地方は四季を通じて自然条件が厳しい所。夏は冷たい海霧で視界も悪い。今の季節は凍てつく雪で、街中はひっそり閑としているものと思っていた。さにあらず。三白で観光客が引きもきらないと弾む声。良く訓練された発音による、プロの話し手の引き出し方の妙味を堪能。

さて、三白とは丹頂鶴、白鳥それに流氷の白。智恵者の釧路市観光課の担当者が命名し、今では関係者に普及。驚いたのは、観光の主体は台湾からのツアー客。

三白を満喫する観光なら三泊。北回歸線直下の亜熱帯、雪なき台湾の人々には冬の白さが新鮮に映る。厳しい冬を逆手にとった、素晴らしいアイデアと抜群の企画力にネーミング。しばらく前に流行った逆転の発想の好例。元運輸省では、アジアの旅行客を呼ぼうとする観光政策。昨今は、スロ - フードやスローライフで、食や生活スタイルの見直し等の追い風。農水省も負けじと、JA主体のグリーンツーリズムで奮闘・後押し。

冬の北海道の楽しみは国内客のスキーが定番。流氷見物なら多くのアジアの人々に大きくアピール可能。さらに、ラムサール条約に登録の釧路湿原や名勝・知床半島もある。

イワシやサバが見えなくなり、漁師町としては淋しくなったが、流氷は大自然アムール大河まで続く氷の回廊・真冬の贈り物。漁獲量回復の予測は難しいが、環境省のレッドブック入りした訳ではない。回遊魚の戻ってくるまで、気長にトラバ蟹と石狩鍋でアジアの友人をもてなして欲しい。

一日も早い隣国との北方領土交渉の進展・解決が望まれる。日口の漁師が豊かな海で、腕と漁を競い合う港町ならさらに大歓迎。